

温泉のボイラーを取り壊す

みなと山

楽新聞

1月25日
編集者 〇〇



温
白
水
の
あ
た
た
か
さ
は
ボ
イ
ラ
ー
あ
た
た
か
さ
の
か
ス
ボ
イ
ラ
ー
は
ま
き
ボ
イ
ラ
ー
と
か
ス
ボ
イ
ラ
ー
で
つ
く
ら
れ
て
い
る
も
と
は
ま
き
は
家
を
か
さ
さ
だ
け
た
た
が
ま
さ
ボ
イ
ラ
ー
を
使
う
こ
と
に
よ
り
温
泉
が
な
め
ら
か
に
な
る



解
体
し
て
出
て
さ
た
物
を
使
っ
て
い
る
ボ
イ
ラ
ー
は
和
気
輔
さ
ん
の
温
度
な
い
を
ち
や
う
せ
つ
し
て
い
る
そ
の
た
め
あ
た
た
か
く



ち
や
う
と
よ
い
温
度
に
な
る
の
た
め
そ
の
お
か
け
で
た
く
さ
ん
の
人
々
に
人
気
で
あ
る
源
泉
の
温
度
が
26
度
て
い
と
か
ら
あ
そ
こ
ま
で
あ
た
た
ま
る
温
泉
は
自
然
と
の
た
た
か
い
な
上
た
く
さ
ん
の
仕
事
が
あ
る
か
ら
こ
と
い
い
こ
と
が
あ
る

バックヤード 取材 木又耳



おつき新聞 木又耳



和気輔(36才)は湊山温泉の副店長をつとめている人
 ↓
 ずてあんなにおもしろいまま



← バックヤードのおくにおんどのちゅうせいできる本機機があるそこにはたしきまのスイッチがあった



← バックヤードにわいろんなものがありボイラーがほりしょうきがふきだしておりさしよのときのとキのおんせいとうどろどろなどがをいてあ、た

材又を取らるるバックルーム

そま新聞
まがわ 新聞



バックルームの中にはおんせんのおんせんの所がいろいろあります。まきをまきにして使います。



まきと山おんせん
の副店長 和気 兼平
まきはここに木を
まきと山おんせん
の副店長 和気 兼平
まきはここに木を

まがわ小学校
まがわ 編集者名

バックルームの中にはおんせんのおんせんの所がいろいろあります。まきをまきにして使います。

まきはここに木を
まきと山おんせん
の副店長 和気 兼平
まきはここに木を



まきはここに木を
まきと山おんせん
の副店長 和気 兼平
まきはここに木を

百三十五年 歴史の秘訣

湯の文化新刊

発行日 2023年 1月 25日 (土)
編集者 湯の文化編集部



「湯の文化」は、湯の歴史を伝えるための雑誌です。今回は、湯の歴史の秘訣について、湯師のインタビューや、湯の文化の紹介を行っています。

湯師のインタビュー
湯の歴史の秘訣
湯の文化の紹介



湯師のインタビュー
湯の歴史の秘訣
湯の文化の紹介

湯師のインタビュー
湯の歴史の秘訣
湯の文化の紹介

再利用で温める温泉

湯師のインタビュー
湯の歴史の秘訣
湯の文化の紹介

湯師のインタビュー
湯の歴史の秘訣
湯の文化の紹介

| | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|
| 111 | 101 | 91 | 81 | 71 | 61 |
| 112 | 102 | 92 | 82 | 72 | 62 |
| 113 | 103 | 93 | 83 | 73 | 63 |
| 114 | 104 | 94 | 84 | 74 | 64 |
| 115 | 105 | 95 | 85 | 75 | 65 |
| 116 | 106 | 96 | 86 | 76 | 66 |
| 117 | 107 | 97 | 87 | 77 | 67 |
| 118 | 108 | 98 | 88 | 78 | 68 |
| 119 | 109 | 99 | 89 | 79 | 69 |
| 120 | 110 | 100 | 90 | 80 | 70 |



湯師のインタビュー
湯の歴史の秘訣
湯の文化の紹介

湯師のインタビュー
湯の歴史の秘訣
湯の文化の紹介

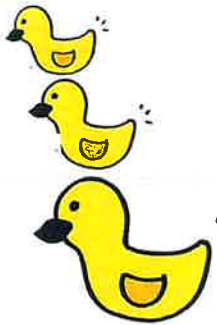
湯師の秘訣! 湯山温泉



心も休もあたたまる。

おんせんやなめに図書館が

本をおんせんで読もう新聞



1月25日湯山おんせんに見学しに行きました。本が70000さつもあって、しょうじきびくびくしました。マンガの本もありました。

本はなんと70000さつ



2025年 1月25日

げいのう人もたまに、来る!

かがあしんじが、前来た! ほかにいろいろなげいのう人が来ているというじゃうほうが!! げいのう人が来るほど人受なみなと山おんせんとみなさんもおい、たい合えるかも! 今度行、てみてください。



地域密着新聞



温泉の上に広い空間

発行日 2025年1月25日(土)
編集者 羽田 研二 出版



神戸市兵庫区一ツ山の山の上にある「湊山温泉」。その二階には大きく「温泉十雑談」の二階には大きく「温泉十雑談」の本が並べられた空間「温泉」があった。百三十五年の歴史を持つ湊山温泉。しかし、九年前に一時的閉店してしまっただけで、そこからリニューアブルな空間にするまでに、店長さんが自らが倉庫を改修して設計して作り上げたのが、泉である。副店長の知念輔さん(68)は、「七十冊以上の

くつろげる空間「温泉」



本がここにあって、語る。新しい冊数は不明だ。しかし、副店長さんはこの空間だけでも、中に入るとくつろげる本棚も設計して作らせた。中には、思いのほか長く、長居はびたり空間だ。さらに取材を進めると、利用客層も目覚めてきた。平日はここで仕事を終える人が多く、休日は家族連れも多くなった。他にも、たき火のめいじらみヤシロ、ブランクともあった。湊山温泉を訪れる機会ができればぜひ行ってほしい。

まきボーラーのあたたかみ
湊山温泉は、二種類のボーラーで源泉を温める。ガスボーラーとまきボーラーだ。今回はまきボーラーに注目。元々、ガスボーラーのみ使っていたが、まきボーラーを使い始めてから、お湯がまるやかになった」と言われるそう。まきには、建築は材を使い、木の種類によっても、お湯の味も違う。ボーラーの近くは、山灰のおいしさも、心かほかにした。



「お湯がまるやかになる。」



編集者の注目ポイント
源泉が流しの山温泉。その源泉をおろちで沸かして、たのは初めて。緊張しながら、その名も「温泉」を、まきボーラーを使い、お湯がまるやかになる。お湯がまるやかになる。お湯がまるやかになる。お湯がまるやかになる。

源泉100%
湊山温泉
遊びに来てね!

